

## [100] 経済論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/3077363>

---

出版情報：経済論究. 100, 1998-03-31. 九州大学大学院経済学会  
バージョン：  
権利関係：

# 総目次

(第 1 ～ 99 号)

## 総目次

### 第1号 (1957年2月)

固定資本財の寿命と再投資	山崎良也
栗原氏の日本農業論の一検討	原田三喜雄
中世史研究に関する若干の覚書	友岡学
英国石炭産業国有化形態と諸問題の展開	山本政一
最適操業度における販売量概念の導入	浦野平三

### 第2号 (1957年9月)

家畜繋駕法の発達	湯村武人
「同一労働同一賃金」の原則について	佐藤保
銀行資本集積と支店制度	中村雄次郎
リカードの外国貿易論と貨幣数量説	村岡俊三
英国石炭産業国有化形態と諸問題の展開 (その二)	山本政一
プレッチ著「経営管理論」の一考察	田代義範
標本技術調査論の立場から	船木勝也

### 第3号 (1958年2月)

在庫量の問題についての若干の覚書 — オペレーションズリサーチ —	山崎良也
「バンク・グルツペの研究」(1) — 銀行資本集中と支店制度 —	中村雄次郎
金属流通と紙券流通 — リツカードウ貨幣論の一考察 —	深町郁弥
リカードウの外国貿易論と貨幣数量説 (承前)	村岡俊三
スミス信用貨幣論の考察	中村広治

### 第4号 (1958年11月)

ステーブル商人の形成とエドワード・二世の経済政策	山村延昭
ジョン・ローの信用理論	大坪徳次
株式配当 — Stock Dividend — の所得性について	伊井賢二
賃金体系の一考察 — 三池炭鉱賃金体系の場合 —	田中勝之
職能別組織と産業別組織	三好正巳

運転資本の概念についての一考察  
— 経営管理との関連において —

浦野平三

第5号 (1959年3月)

イギリスに於ける直営地定期借地農の一考察  
英蘭銀行券と小切手  
通貨論争とミルの論争批判  
テイラーの職能的組織の成立  
— 管理の集中 —  
第十八国立銀行の歴史的一考察

長野 暹  
大坪 徳次  
宮崎 喜代司  
堤 矩之  
伊丹 正博

第6号 (1959年10月)

リカードウ価値尺度論の一考察  
— マルサスとの関連において —  
堀江理論批判  
— 堀江・森垣論争によせて —  
独立革命前に於けるアメリカ銀行組織について  
イギリス信用制度の生成  
— 近代的商業信用について —  
経営管理の基準について  
— テイラー・システム, 時間管理の成立 —

吹春 寛一  
坂本 秀行  
高橋 久彌  
川島 信義  
原田 実

第7号 (1960年3月)

補整財政政策の価格理論  
国家独占資本主義論争について  
— 井汲理論を中心として —  
ドイツ社会民主党の農業理論  
— 1894~95年の論争を中心にして —  
ミル信用論の基礎  
ステーブル制度の展開と信用取引の発展

阿部 真也  
福田 豊  
原田 溥  
宮崎 喜代司  
山村 延昭

第8号 (1960年11月)

現代世界経済論の一側面  
— ストレイチイの連邦観について —  
市場価格の変動について  
— 有効需要分析と関連して —  
賃労働論におけるマニファクチュア

都野 尚典  
阿部 真也  
清山 卓郎

国際的価値と世界的平均労働概念  
— 「国際的価値論争」整理の一論点 —

山田 隆 士

第9号 (1961年3月)

生産価格表式について

金子 甫

労働力の価値法則について

相原 陽

封建「地代」の非地代性

友岡 学

— 共同体論との関連に於て —

ヴァツター賃金理論の一考察

川口 稻生

— 経営財務論の視点より —

事業部制の展開と振替価格政策

下川 浩一

第10号 (1961年10月)

シュムペーター景気循環理論の一考察

岩野 茂道

差額地代第II形態

田中 慎一郎

差額地代IIについて

宮川 謙三

米国自動車工業界に於ける非価格競争の推移と  
その経営技術構造について

寺中 良二

経済論究総目次 (第1号～第10号)

第11号 (1962年3月)

生産価格と価格法則

金子 甫

レーニンの農民革命論に関するノート

中山 崧雄

資本輸出と国際収支

都野 尚典

「費用価格」概念と競争について

逢坂 充

第12号 (1962年10月)

アメリカ鉄鋼業における賃金先導

江口 伝

— U.S.Steelによるパターン設定の団体交渉慣行の一研究 —

金融資本と銀行資本

鈴木 芳徳

経済学への提議

友岡 学

— 基礎的諸概念の再検討 —

長期停滞論と30年代の不況

田中 慎一郎

— ニュー・ディール研究ノート —

第13号 (1963年2月)

マルクス・エンゲルスの農民観

原田 統之介

独占と中小資本 —支配従属関係の成立について—	仲村政文
絶対地代について	小林晃
19世紀後期イギリスの「大不況」について —恐慌の形態変化問題との関連で—	藤田暁男
ルール地方の「混合企業」について	相原陽

第14号 (1963年10月)

生産費用と流通費用	尾野展昭
—国資本主義の経済構造 —その内・外的諸条件について—	角松正雄
ヒルファンディング「株式会社論」に関する覚え書	三好正巳
株式会社発生史論の問題点	鈴木芳徳

第15号 (1964年3月)

科学的管理と労働組合 —ティラリズムの組合観を中心として—	田島司郎
利潤率低下法則試論 —体制的利潤率について—	中村氏方
資本蓄積と労賃法則(1)	仲村政文

第16号 (1964年10月)

地域経済発展の体系的諸問題	杉野圀明
自己金融論ノート	田中慎一郎
寄生地主制形成史の一論点をめぐって	毛利淳二

第17号 (1965年3月)

貨幣的経済理論批判	友岡学
「資本論」における土地所有についての一考察そのI	三上礼次
「世界市場」試論 —その概念について—	中村氏方
ヒューマン・リレーションズの労使関係論 —B.M.Selekmanの所論を中心に—	田島司郎

第18号 (1965年10月)

企業金融と投資機会	荒川米一郎
レーニンにおける帝国主義の概念	上滝陸生

- 資本主義的経済成長の構造について 杉野 園 明
- 第19号** (1966年 3月)
- ヒルファディング『金融資本論』の理論的性格について 野田 弘 英  
投資決定基準に関する若干の問題点 古賀 公 治  
帝国主義の低開発国支配体制について 高橋 健  
— アメリカを中心にして —
- 第20号** (1967年10月)
- 再生産表式と第 I 部門の優先的發展について 高木 彰  
— 第 I 部門蓄積率の先行性を中心として —  
地域間産業連関分析の諸方向 時 政 勲  
赤字財政と景気変動 古川 卓 萬  
— ニュー・ディール財政政策の評価と展望 —  
資本コストに関する一考察 古賀 公 治  
— E・ソロモン教授の見解を中心にして —
- 第21号** (1968年 3月)
- スミス政治経済学の体系と国家の問題 広 渡 貞 喜  
— スミスによるブルジョア社会の総括者としての  
国家把握とスミス財政論の基礎概念について —  
再生産表式と内在的矛盾 高木 彰  
— 第一部門蓄積率の累積性の内容規定に関連して —  
ヒルファディング貨幣論に関する一考察 野田 弘 英  
— 『金融資本論』研究の序説として —  
クレディ・モビリエにおける長期社債の性格 中 村 雄次郎  
— ブラッセルのソシエテ・ジェネラルとの関連において —
- 第22, 23合併号** (1969年 3月)
- ミントの後進国開発論批判 高橋 健  
貨幣の相対的価値の国民的相違(1) 中川 信義  
— その世界市場での諸資本の競争との連関について —  
スミス『国富論』における近代社会への移行の二つの道について 小柳 公 洋  
マルクス・エンゲルス効果の拡大再生産における展開 藤田 昌 也
- 第24号** (1970年 4月)
- 「現代時価償却論の鳥瞰図」 久木田 重 和  
— 現代時価主義研究(-) —

剰余価値生産と労働力の価値変動 — 資本制的蓄積と労賃法則論序説 —	川 渕 ス ミ
資本主義の基本矛盾と現段階	中 原 弘 二
商業信用と産業資本 — 「宇野理論」における「商業信用論」批判 —	岡 本 憲 也
マルクスにおける労働と機械	堀 内 隆 治

### 第25号 (1970年10月)

技術論におけるいわゆる意識的適用説について — 経営技術論のための序章 —	嶋 啓
資本維持論の限界とその展開の方向 — 現代減価償却論分析の一視座 —	藤 田 昌 也
資本輸出に関する一考察 — 「帝国主義体系」と資本輸出 —	皆 村 武 一
『3月前』期ドイツにおけるフオイエルバッハとマルクス	佐 藤 誠

### 第26号 (1971年7月)

マルクスの貨幣論の成立に関する一考察	中 尾 訓 生
恐慌の必然性についての一考察	藤 島 洋 一
資本輸出に関する一考察	皆 村 武 一
マルクスの「労働」概念についての一考察	越 智 保 則

### 第27号 (1971年10月)

黄金時代の経済と新古典派定理	山 下 正 毅
マルクス・エンゲルスの労働同盟論	渡 辺 満
ヒルファテイングの資本主義発展論に関する一考察	中 尾 訓 生
「労働組合の経営参加」について	石 井 修 二

### 第28号 (1972年6月)

科学としての経済学	池 田 国 宏
「生産価格」概念について	古 川 正 紀
若いレーニンの歴史と経済認識にふれて	桂 木 健 次
ゲック経営社会政策の性格について	佐 護 譽
経済論究総目次	



第29号 (1973年 2月)

市場価値論論争におけるもう一つの解決	藤 島 洋 一
レーニンの農業論—— 帝国主義論についての考察 — 類型と段階認識にふれて —	桂 木 健 次
資産選択の理論構造	江 副 憲 昭
再生産とサービス部門 — ベ・ア・メドゥベージェフの所論を中心として —	飯 盛 信 男

第30号 (1973年 6月)

シュヴェンガー経営社会政策の概念と内容(1)	佐 護 譽
レーニン『帝国主義』の視角の確立課程	田 中 素 香
現代国際通貨問題への一視角 — IMF体制の本質と展開 —	平 勝 広
組織スラックについて	平 池 久 義

第31号 (1974年 3月)

多期間資産選択理論における一特殊問題	江 副 憲 昭
生産的労働とサービス部門 — ソ連邦における最近の論争について —	飯 盛 信 男
労働市場—— 労働問題分析の媒介項—— の検討	来 島 浩
ウェブの産業民主主義論について — 「労働組合の経営参加」の 思想的背景についての考察〔I〕 —	石 井 修 二

第32号 (1974年 7月)

M・ウエーバーの社会政策論に関する I 考察 — 官僚制批判を中心として —	久 間 清 俊
「帝国主義論」における世界経済認識	田 中 素 香
イギリス資本主義と英帝国	中 村 靖 志
西ドイツにおける配当問題の展開(1) — 企業「利益」と配当政策の関連について —	丑 山 優
経済サイバネティクスに関する一考察 — ネムチノフの経済管理論について —	森 博 美

第33号 (1975年 2月)

非負行列の性質と線型経済理論 — 非負行列定理の国際貿易理論の適用 —	大 住 圭 介
--	---------

フランス1861年白地綿布仮輸入制度に関する一考察	古賀和文
市場均衡の安定性	是枝正啓
— 模索過程と非模索過程 —	
組織スラックと経営者行動	平池久義
— O.E. Williamson ; “The Economics of Discretionary Behavior” ; を中心として	
公共資本と最適フィスカルポリシー	細江守紀
西ドイツにおける配当問題の展開(2)	丑山優
— 企業「利益」と配当政策の関連について —	

第34号 (1975年7月)

ローザ・ルクセンブルクの研究の一視角	岡村東洋光
— 「プロレタリアート」派のポーランド論と若きローザ —	
19世紀前半アルザス綿工業における「統合企業」の歴史的意義	古賀和文
ヴェブレンにおける「貸付信用」と株式会社	高哲男
消費者余剰に関する一考察	松沢俊雄
— 公共投資の便益評価に向けて —	
マルサスの政策論的基調としての「農・工均衡発展」論	山内良一
— 穀物法論争を手がかりにして —	
再建金本位制下におけるイングランド銀行の対外活動について	吉沢法生

第35号 (1975年12月)

国家独占資本主義における所得政策=賃金統制の展開	来島浩
資本蓄積論への一視角	鈴木滋
— 利潤率の傾向的低下法則と技術進歩 —	
ヴェブレンとスミス	高哲男
— 進化論的経済学との関連で —	
顕示選好理論	田中広滋
— アローのオープン・クエスチョンについて —	
アメリカ互惠通商協定政策の成立と展開	西田勝喜
「スターリング為替本位制」とロンドン・バランス	平岡賢司
産業革命期フランス製鉄業における工場労働者の形成	藤村大時郎
— フランス中部の一工場を中心にして —	

第36号 (1976年3月)

歴史学派のカルテル論争とM.ウェーバー	小野隆弘
ニュー・ディール貿易政策に関する若干の問題点	西田勝喜

ロンドン金融市場とマーチャント・バンカー — 1850年代を中心に —	服 部 彰
交通混雑問題の一視角 — 混雑税を中心として —	松 沢 俊 雄

第37号 (1976年7月)

漁業賃労働の形態変化に関する一考察	井 手 義 則
コモンスの「制度的枠組み」と労働組合論 — アメリカ労使関係分析序説 —	鈴 木 滋
再生産と蓄蔵貨幣 — 信用制度との関連において —	高 倉 泰 夫
「余剰」概念と資本主義の発展	立 花 敬 雄

第38号 (1976年12月)

「金融資本論」の基本構成 — 金融資本と金融市場(1) —	坂 本 正
技術進歩と特別剰余価値の関連についての一視点 — 降旗氏の所得にふれつつ —	立 花 敬 雄
19世紀前半のイギリス鉄道業と景気循環 選好の序数的性質にかんする基本定理	田 中 克 尚
ドイツ国債問題の展開1914-1923 — 現代公信用の一限界 —	田 中 広 滋
国際金融市場の分裂とドル・バランスの形成	中 村 良 広
	平 岡 賢 司

第39号 (1977年3月)

ヒルファディング「独占形成」論の構造 — 金融資本と金融市場(2) —	坂 本 正
『経済学批判要綱』における「資本一般」 — その方法と限界 —	高 倉 泰 夫
中世後期ケルン羊毛工業の展開過程 — 『ツunft闘争』期の諸利害 —	田 北 廣 道
官僚制組織の動態的把握とその展開 — M.クロジェ『官僚制現象』をめぐって —	中 野 裕 治

第40号 (1977年9月)

アダムスミスの資本蓄積論について	関 源 太 郎
国際収支と国際的信用	菰 田 文 男

第41号 (1977年12月)

- 都市経済モデルに関する一考察  
 — Segregated Land Allocationの場合 — 慶 田 収
- 70年代の国際短期資本移動と変動相場制度 菰 田 文 男
- 貸付資本の運動と貨幣量に関する一考察  
 — 中央銀行金融政策序論 — 西 野 宗 雄

第42号 (1978年3月)

- アダム・スミスの貿易理論  
 — その動態的把握の意義と限界 — 菰 田 文 男
- 社会変革と労働主体  
 — 『経済学批判要綱』における労働過程論 — 中 村 達
- 官僚制組織における参加と統合  
 — M.Crozier “The World of  
 the Office Worker”を中心に — 中 野 裕 治

第43号 (1978年10月)

- 郊外地域の生産効率と境界地代 慶 田 収
- 科学技術革命と生産力概念の再検討  
 — 主要生産力規定を手掛かりに — 久 野 国 夫
- 新国際経済秩序宣言 (NIEO) と低開発国現代重商主義 川 本 忠 雄

第44号 (1979年1月)

- 「独占」の価格決定行動と投資行動に関する一考察 清 野 良 栄
- アダム・スミスの租税論 納 富 一 郎
- 『経済学手稿 (1861-63年)』における「貨幣の資本への転化」  
 — 『マルクス・エンゲルス著作集』,  
 ロシア語第2版47巻によせて — 原 伸 子
- トマス・ホジスキンの「共存する労働」と貨幣・信用 姫 野 順 一

第45号 (1979年3月)

- 1920年代の連銀政策について  
 — B・ストロングの見解を手がかりに — 永 田 裕 司
- 実質賃金率の変動と景気循環 菰 田 雅 弘
- 資料
- 天保2～4年大隅農村における郷士の農業経営 (その1) 江 藤 彰 彦

第46号 (1979年8月)

「国民経済学」批判の視座について — 「パリ草稿」をめぐって —	秋 田 清
コングロマリットの合併財務政策	佐々木 利 充
J・A・ホブソンの「過剰貯蓄」論 — 『産業の生理学』を中心として —	姫 野 順 一

第47号 (1979年11号)

低開発国における外資のナショナリゼーションと米国援助政策 — 海外民間投資公社 (OPIC) の活動を中心に —	川 本 忠 雄
リカードゥ租税論の研究	納 富 一 郎
寡占経済下の経済変動 資料	藪 田 雅 弘
天保2～4年大隅農村における郷士の農業経営 (その2)	江 藤 彰 彦

第48号 (1980年3月)

マルクス「パリ草稿」とアダム・スミス	秋 田 清
市場の「ゆがみ」と経済的厚生	緒 方 隆
市場価値と超過利潤 — 特別剰余価値と超過利潤の関連によせて —	清 野 良 栄
資本主義と生産力 — 資本主義における研究・開発 (R&D) 労働析出の必然性 —	久 野 国 夫

第49号 (1980年11号)

賃金循環論と国際収支	井 上 伊知郎
J・ウィルソンにおける資本と再生産	川 波 洋 一
資源配分機構設計の一考察	北 原 真 木

第50号 (1981年1月)

社会的厚生の最大化と国際貿易	緒 方 隆
不確実性下におけるLPモデルによる短期資金調達計画 — ポーグ＝バサドの所論を中心として —	立 石 義 明
Stagflationに関する一考察 「経済論究」総目次	藪 田 雅 弘

第51号 (1981年 6月)

J・ウィルソンにおける貨幣と資本	川 波 洋 一
計画経済体制における割り当て—報奨体系	北 原 真 木
現金管理のための貨幣需要に対する在庫管理的アプローチの展開 —オアの所論を中心として—	立 石 義 明
国際経済における均衡 —リカードゥの問題提起とその解答—	鳴 瀬 成 洋
イギリスにおける「大不況」(1873~96) 分析の基本課題	野 下 保 利
中央銀行論の展開に関する一考察 —イングランド銀行の史的展開過程との関連で—	藤 田 幸 雄

第52号 (1981年10月)

外国為替制度の流動性体系について —1830年代における英米貿易を中心として—	井 上 伊知郎
フランス初期工業会計論の研究 —C.A.ギルポー「工業会計論」における会計と管理—	大 下 丈 平
人口統計会計とその応用	金 丸 哲
社会指標の現段階	山 田 茂

第53号 (1981年12月)

経営労働と労働疎外 —経営労働の体系的分析の視点を求めて—	遠 藤 雄 二
「国民的」勘定行列と「国内的」勘定行列	金 丸 哲
G.G.ミュラーの国際会計論 —換算会計論を中心として—	河 野 信 一
為替安定資金と三国通貨協定 —1930年代の為替相場安定機構—	神 沢 正 典
現代アメリカにおける負債会計の考察	徳 賀 芳 弘

第54号 (1982年 4月)

資本の絶対的過剰生産規定の意義と限界 —相対的過剰人口論を中心として—	中 野 元
近代における地主経営の展開と小作争議 —兵庫県60町歩地主平野家を事例として—	西 村 卓
イングランド銀行の創設にかんする一考察	藤 田 幸 雄

第55号 (1982年12月)

- アメリカにおける信託兼営銀行の形成 青山和司  
アメリカにおける負債概念の変化に関する一考察(1) 徳賀芳弘  
A simplified Version of Hahn's  
General Equilibrium Model Junich Yamashita

第56号 (1983年1月)

- 旧IMFと金の管理 神沢正典  
— 金市場価格の管理と為替相場 —  
現代における相対的過剰人口について 中野元  
— 不安定就業者層の展開による宇野理論の批判を通して —  
雇用率変化の決定因と影響 村田省三

第57号 (1983年8月)

- 科学的管理成立の背景に関する一考察 中川誠士  
— 内部請負制度を中心として —  
金融資産の累積と信用論研究 原田善教  
— 貨幣資本蓄積論研究 —  
On the Local Stability of Dynamical Systems  
in the Saddle-point Sense Shozo Murata  
国際石油産業の構造変化について 山崎朗  
— OPECの事業参加政策を中心として —  
ケインズ『一般理論』における不均衡問題 山田信一

第58号 (1983年11月)

- 所得課税と公共投資基準 有吉範敏  
経営労務論と労働者 遠藤雄二  
発展途上国における経済開発とマーケティング 大石芳裕  
国際通貨ポンドの形成過程に関する一考察 松尾隆  
対称的な価格予想をもつ大きな逐次経済モデル 山下純一

第59号 (1984年7月)

- 公共財と公共資本の動学的最適配分 有吉範敏  
カウンター・トレード 里園清孝  
— 新形態と現代的意義 —  
クラフツメンの自治と科学的管理 中川誠士  
— 19世紀末のアメリカ産業における事例を中心として

消費関数と投資

— ケインズ有効需要論の構造 —

山 田 信 一

第60号 (1984年10月)

ケインズの貯蓄概念について

鈴 木 典 夫

台湾の経済発展と農業生産構造の転換

— 転換点理論の限界性について —

蔡 希 賢

独占概念と競争論の展開に関する一考察

溝 上 孝 夫

最適制御問題にたいする十分性定理について

村 田 省 三

第61号 (1985年3月)

垂直的統合分析とGoodwin Model

秋 本 耕 二

不確実性下の経済均衡に関する一考察

有 定 愛 展

景気上昇局面と外国貿易

石 田 修

兼営銀行制度と信用創造

— 西独における金利自由化 —

清 田 匡

ドイツ民主共和国における半国有企業の発展過程

— 社会主義的計画経済への編入に関連して —

杉 田 憲 道

1920年代末アメリカの証券市場と貨幣資本形成

原 田 善 教

南ネーデルラント『市外市民』制に関する一考察

藤 井 美 男

行政指導における政策メカニズムの分析

— 生産調整政策を中心として —

松 井 隆 幸

破産コスト導入における最適資本構成論に関する一考察

— Kimのモデルを中心として —

安 田 義 郎

石油産業国有化のプロトタイプについて

山 崎 朗

クラウディング・アウト効果の計量分析

山 田 和 敏

第62号 (1985年8月)

ドイツ民主共和国におけるコンビナートの発展と経済計算制

杉 田 憲 道

ケインズの貨幣について

鈴 木 典 夫

Effective Demand and Prices

— Variation on a Theme by Sraffa —

Seiji Nagata

1920年代朝鮮・台湾における日本帝国主義

— 矢内原忠雄の植民地政策論 —

深 川 博 史

13世紀末イープル毛織物工業の変容過程

— 1280年の内乱を契機とした —

藤 井 美 男

連銀の対外金融政策とウォール街

— 国際通貨ドルの形成過程との関連で —

松 尾 隆



「経営者＝機能資本家説」に関する一考察

山岡敏秀

第63号 (1985年12月)

2部門・2階級における資本蓄積と所得配分

秋本耕二

経済のコアと均衡に関する一考察

有定愛展

価格情報に関する探索行動について

永星浩一

プラン・コンタブルの構成

岡田裕正

特殊訓練と限界生産力

福澤勝彦

EMSと国際収支調整

星野郁

最適資本構成とレバレッジ関連コスト

安田義郎

On the Asymptotic Mean Square Error of Multi-step  
Ahead Prediction for the Bilinear Time Series Model

Kazutoshi Yamada

第64号 (1986年4月)

西ドイツにおける外国人労働者雇用とEC

有賀優子

— 国際労働力移動に関する一考察 —

二重構造と経済発展

蔡希賢

— 日本経済の中進国段階における発展過程 —

Role of Demand in Leontief-Sraffa System

Seiji Nagata

— Focusing Attention on the Duality between  
Quantity System and Value System —

An Expected Income and Consumption Function

Hiroaki Fujimoto

J.S.ミル「利潤率低下論」の「法則」性について

諸泉俊介

単純流通とその仮象

安田均

第65号 (1986年7月)

アメリカにおける連邦所得税制度の確立

赤石孝次

— 1894～1921 —

流動性理論と信用理論

数阪孝志

「有効競争論」批判

萩野誠

— 再構築への一考察 —

サン・ヴィクトル修道院所領明細帳 (813-14年) の分析

平嶋照子

— 中世初期南仏農村構造解明のために —

国際銀行業と国際金融取引の増大メカニズム

前田淳

日本における新規産業育成政策のメカニズム

松井隆幸

— 石油化学工業第1期計画を題材として —

総合商社の形成と商社金融

宮崎卓朗

第66号 (1986年11月)

機会原価についての一考察	岡田 裕 正
計量経済モデルの選択基準について — AIC利用上の問題点とその一つの解決法 —	林 田 実
石橋湛山の植民地政策論	深 川 博 史
不確実性下の企業の意思決定と特殊訓練	福 澤 勝 彦

第67号 (1987年 3月)

戦間期アメリカの商業銀行と転嫁流動性理論	数 阪 孝 志
EC農業と域内優先システム	北 崎 浩 嗣
ドイツ民主共和国における社会主義会計制度の発展と利益計算	杉 田 憲 道
財政赤字のマクロ効果と経済成長	高 木 かおる
日本におけるインフレーションと失業の計量分析 — マネタリスト・モデルによる検証 —	長 崎 健 一
単純な双線形時系列モデルのモーメント法によるパラメータ推定	中 村 博 和
EMSと西ドイツの金融政策	星 野 郁
J.Sミルの利潤論に関する一考察 — 『試論集』 第四論文の検討を中心に —	諸 泉 俊 介

第68号 (1987年 8月)

A. マーシャルの『代表的企業』について	岩 下 伸 朗
多国籍企業の立地展開と国際分業 — ヴァーノン・モデルとハイマー・モデルを比較して —	鈴 木 洋 太 郎
市場主導型農政と米国1985年農業法	堤 菜穂子
保険業の生成について	中 浜 隆
労務監査の一手法としての従業員態度調査の意義の変容	野 田 博 康
SHAPE OF AGGREGATE SUPPLY CURVE IN JAPAN — Some Consideration of Okun's law —	H. Fujimoto
商業資本の競争による商品別専門分化と「総合化」 — 総合商社形成の理論的考察 —	宮 崎 卓 郎

第69号 (1987年11月)

企業の市場評価に関する一考察 — モッシンの所論を中心として —	工 藤 裕 孝
双線形時系列モデルに成り立つ中心極限定理について	中 村 博 和
Some Aspects of the Kinked Demand Curve Hypothesis from the Sales-maximization principle	Makoto Hagino

西ドイツにおける企業内加給の形成と協約賃金	藤原直樹
企業年金資産運用の財務的效果 — ERISAと「財務会計基準」との比較において —	牟田正人
1985年ドイツ商法典における秘密積立金の新しい動向	森美智代
不確実性下の非線型CVP分析	王効平

### 第70号 (1988年3月)

CAPと西ドイツの対応	北崎浩嗣
ネップ移行期におけるソビエト簿記理論の歴史的特質 — ガラガン教授の所説を中心として —	斎藤久美子
「流通必要貨幣量」と貨幣資本蓄積	鳥井鋼生
インフォーマティブな事前分布を用いたGradual Switching Regression Modelの分析とその応用	長崎健一
13世紀末ブリュージュの会計簿について	平嶋照子
企業とユニオンの協力関係について	福澤勝彦
政府の財源と計量分析	藤本浩明
遺産行動と公債政策 — 公債中立性命題の再検討 —	前田純一
商業資本の排除と独占価格維持	宮崎卓朗
「単純再生産」論と蓄積(I)	諸泉俊介
会計士監査の形成 — フランス会計監査役の場合 —	吉見宏

### 第71号 (1988年7月)

QWLの変質 — アメリカ自動車産業を中心に —	今村寛治
A. マーシャルの『準地代』について	岩下伸朗
A Simple Linear Regression Approach to Structural Change — A Note on the Initial Value of Kalman Filter Algorithm —	K. Oya
米国生命保険業の業務多様化 — 1960・70年代を中心として —	中浜隆
経済発展理論と国際収支 — 開放経済モデルへの一接近 —	長島正治
所得再分配政策と公債政策 — 再分配動学モデルによる検討 —	前田純一
「空間集積論」再編のための一考察	柳井雅人

第72号 (1988年11月)

西ドイツ経営における能率給形態の新展開	藤原直樹
貸借対照表能力論における静態論と動態論 —特に、無形財の貸借対照表能力に関する Doris Zimmermannの所説を中心として—	森美智代
アメリカの農産物輸出促進政策 —1980年代議会資料の検討を中心に—	堤菜穂子
管理会計におけるPERT/costの展開	王効平

第73号 (1989年3月)

空間的独占下の価格政策について	石塚孔信
ベイズ型事前情報を含む可変係数回帰モデル	大屋幸輔
NI法による企業評価	工藤裕孝
産業立地と国際移転 —生産拠点の国際的立地の論理—	鈴木洋太郎
貨幣賃金率と物価水準—Ricardoの場合—	関根順一
対外直接投資の現代的形態	津守貴之
単純な双線形モデルを攪乱項にもつ線形回帰モデルについて	中村博和
新古典派モデルによる債務循環論の一定式化	長島正治
ヨーロッパ共同体の統合経済勘定体系 (ESA) にかんする一考察	松川太一郎
企業年金会計基準の企業財務における意義	牟田正人
斜影凸関数について	渡辺淳一

第74号 (1989年8月)

供給制約、雇用および実質為替レート	秋山優
アメリカ労使関係の変容とQWLの位置づけ	今村寛治
最近の国際提携に関する一考察 —C. Oman, M. Porterの所説の検討を通して—	津守貴之
企業の支配形態と財務および投資政策	翟林瑜
経営管理体系とバーナード理論	野田博康
自己選抜モデルを用いた最適報酬計画	三浦功
監査人交替に関する一考察	吉見宏

第75号 (1989年12月)

中世北西スラヴ人定住の1類型 —6～12世紀エルベ・オーデル間農村定住遺跡の考察から—	市原宏一
--	------

中進国の発展と産業の国際配置 — 自動車産業を中心として —	鈴木 洋太郎
Measurement Elasticity of Consumption Goods with Dynamic Model	Bao-hua Zhu
中国複式簿記の形成・確立過程とその意味 — 龍門帳の考察を中心として(1) —	吉 永 心 一
企業のエージェンシー問題と意思決定	翟 林 瑜

### 第76号 (1990年 3月)

変動相場制下の財政・金融政策 — 資産選択アプローチ —	秋 山 優
財政赤字, 経済成長およびスタグフレーション 多項式近似による可変係数回帰モデルを用いた 経済構造変化の検証	井 田 貴 志 大 屋 幸 輔
モーゲージの流動化機構と商業銀行 ケーファー勘定理論の問題点と現代的意味	片 桐 謙 戸 田 龍 介
2 期間最適報酬計画 — 自己選抜モデルによる分析 —	三 浦 功
管理会計研究の視点と課題	王 効 平

### 第77号 (1990年 7月)

投資の $Q$ 理論における財務決定の役割 公信用と金融市場	鵜 崎 清 貴 片 桐 謙
Knowledgeの蓄積と最適経済成長 — Romerによる新しい試み —	坂 上 智 哉
Putty-Clay投資関数について 国民所得分配率としての剰余価値率	朱 保 華 関 根 順 一
財政帰着に関する空間上の公平(1) — R. J. ベネットの『財政の地理学』を中心に —	世 利 洋 介
株主, 経営者と債権者間のエージェンシー関係 ドイツ信用銀行による貨幣節約メカニズムの展開 — 資本信用と信用創造 —	翟 林 瑜 仲 村 靖
“社会的権力”と権限受容説 — 『権力の予期理論』とバーナード理論との接点 —	福 永 文 美 夫
中世初期コルヴァイ修道院所領の空間構造 — 市場史研究の前提として —	藤 田 裕 邦
最適自己選抜メニュー — 企業のタイプが $n$ 種類の場合 —	三 浦 功

「立地単位」から見た諸地域論

柳 井 雅 人

第78号 (1990年11月)

消費者の嗜好に応じた差別的物品税について  
 マーシャル経済学の方法について  
 財政帰着に関する空間上の公平(2)  
 — R. J. ベネットの『財政の地理学』を中心に —  
 非対称情報下での交渉ゲーム  
 資本資産評価の裁定理論についての一考察  
 1970年代のフィリピン農業の地域的变化  
 — 1971年農業センサスと1980年  
 農業センサスの比較検討を通して —  
 最適生産・報酬システムの分析  
 日本企業のグローバリゼーション  
 — 還太平洋のダイナミズムとネットワーク —

井 田 貴 志  
 岩 下 伸 朗  
 世 利 洋 介  
 高 尾 健 朗  
 辻 聖 二  
 西 村 知  
 三 浦 功  
 尤 義 齡

第79号 (1991年3月)

米国における1980年代企業合併の財政政策  
 — その税務的側面を中心として —  
 わが国企業の負債調達行動に関する一考察  
 行為としての消費 — 予備的考察 —  
 ケインズ『貨幣論』における流通循環と銀行制度について  
 — 「管理」の問題をめぐって —  
 証券化と信用保証  
 認識概念の検討  
 人的資本と学校教育  
 — 教育費と最適学校教育時間について —  
 企業の資本構成に関する一考察  
 qアプローチによる投資関数に関する一考察  
 会計理論転換期における簿記計算の一考察  
 資本市場均衡下の裁定評価理論  
 Ansoffの戦略論の展開  
 — 海外活動, マーケティング, テクノロジー —  
 中国複式簿記の構造と特徴  
 — 龍門帳の考察を中心として —

池 上 恭 子  
 市 村 誠  
 小 川 真 理  
 梶 原 博  
 片 桐 謙  
 北 山 弘 樹  
 坂 上 智 哉  
 翟 林 瑜  
 朱 保 華  
 戸 田 龍 介  
 辻 聖 二  
 尤 義 齡  
 吉 永 心 一

第80号 (1991年7月)

米国における事業分割の財務的意義	池上恭子
企業の資金調達行動と税制・投資需要・非対称情報	市村誠
専業主婦と有職主婦の消費構造 — 水産物の消費行為を例示として —	小川真理
中国における公有制と個人的所有制	河村誠治
「財政連邦主義の経済理論」批判 — 政策面に関連して —	世利洋介
経験財市場における参入モデル	高尾健朗
途上国における間接課税の意義と「非包括的」 付加価値税の可能性 (その1)	朴源
権力・権限・影響力 — 『権力の予期理論』とサイモン理論との接点 —	福永文美夫

第81号 (1991年11月)

中国における生産的労働と国民的収入	河村誠治
変動相場制における台湾、韓国の為替市場	蔡劍波
学校教育による人的資本の蓄積と最適経済成長	坂上智哉
動学的生産要素モデルに関する一考察	朱保華
製品差別化と複占企業の最適解	高尾健朗
米国における資産負債中心主義の検討 — 財務諸表の有機的結合を中心として —	戸田龍介
途上国における間接課税の意義と「非包括的」 付加価値税の可能性 (その2)	朴源
東ドイツの女子労働 — 女性にとっての「社会主義」 —	長谷川伸子
ソ連の経済発展に関する一考察 — S. ゴムルカの「帽子状の関係 (hat-shape relationship)」 —	濱地秀行
組織変動と意思決定	黄在 南

第82号 (1992年3月)

1980年代末の米国におけるM & Aの財務・会計問題 — 「のれん」に関する問題を中心として —	池上恭子
後進国開発理論についての一考察 — 50-60年代におけるヌルクセ, ハーシュマン, ミントを中心に —	武衛平
非協力ゲームにおける順序による均衡選択	大石英貴

収益・費用観の生成と実現概念 — 会計思考の転換と実現概念 —	北 山 弘 樹
変動相場制における韓国の為替レート制の変化 — 国際通貨多様化との関連で —	蔡 劍 波
日本的経営の文化人類学的研究に関する一考察 — コンテキスト・コード化・コミュニケーション効率 —	倪 小 堅
産業資本成立期における横浜正金銀行の資金循環構造 — 利付為替手形の処理問題を中心として —	朴 竣 健
リーダーシップ論とオーソリティ論 — 管理過程論と近代組織論との接点 —	福 永 文 美 夫
階層的ニューラルネットワークによる企業財務情報分析 — 倒産分析と債券格付分析 —	李 鋼 浩

第83号 (1992年7月)

組織変動の類型：設計原型と組織軌道 — R. GreenwoodとC. R. Hiningsを中心に —	黄 在 南
オプション価格決定についての一考察	詹 錦 宏
企業のキャッシュフロー不確実性と最適資本構成	辻 聖 二
フィリピンの農業商業化の展開 — 野菜契約栽培の展開と農村構造の変化 —	西 村 知
結合型ニューラルネットワークによる時系列認識の実験	李 鋼 浩

第84号 (1992年10月)

進化ゲームと射影動学	大 石 英 貴
株式プレミアム論争に関する一考察 — 資本金と資本剰余金の区別に向けて —	奥 園 幸 彦
フェデラル・ファンズ市場と貨幣節約	掛 下 達 郎
転換証券の価格決定について — 最適な転換機会と償還政策 —	詹 錦 宏
アメリカの国際競争力強化政策の比較検討 — 産業政策とマクロ経済政策の論拠 —	立 石 剛
ナッシュ均衡における実行可能性の修正概念	都 築 治 彦
途上国の工業化資金調達における 「伝統的」海外直接投資と商業借款	平 木 隆 之

第85号 (1993年3月)

複占市場における製品差別化と情報戦略	楠 田 康 之
--------------------	---------



ナッシュ自発的公共財供給に関する中立性定理  
— 複数公共財のケース —

佐藤 秀 樹

第86号 (1993年7月)

労働争議研究方法論の考察

石 井 まこと

財産税と州補助金

小 泉 和 重

— カリフォルニア州教育財政の構造転換 —

産業構造高度化とサービス経済

田 村 大 樹

ワラントの権利行使についての一考察

詹 錦 宏

— 競争市場を中心に —

カップの社会的費用論に関する研究ノート

外 川 健 一

第87号 (1993年11月)

L. Kelly-Newtonの会計政策論

大 石 桂 一

戦略形ゲームの最適反応性について

大 石 英 貴

経済発展と人的資本

片 桐 昭 司

— Lucas体系とRebelo体系の統合化・一般化とその考察 —

独占企業の不正申告と生産決定

佐 藤 秀 樹

On the social welfare analysis of rent-seeking  
versus other profit-seeking

R. J. Joo

収穫逓増, 不完全競争, および産業内貿易

菅 田 一

好況局面における利潤率の変動について

崔 東 術

平等主義的配分の実行メカニズム

都 築 治 彦

「輸出指向型工業化」と伝統的開発経済論

濱 地 秀 行

— 開発経済論は有効性を失ったのか —

経済開発と国際資金還流

平 木 隆 之

— 外貨導入におけるトラディショナル型と  
オールタナティブ型 —

現代開発理論と開発政策

山 本 一 哉

— 経済発展における市場メカニズムと政府の介入の役割に  
関する論争を中心に —

5分位階層データを用いた所得不平等の評価

横 山 佳 充

ニューラルネットワークにおける効率的学習法と  
その企業倒産予測への応用

李 鋼 浩

日本企業の海外直接投資の資金調達とその支配戦略に関する考察  
— 海外金融子会社の再評価 —

王 忠 毅

## 第88号 (1994年3月)

海外直接投資における資金調達戦略 — 海外金融子会社のモデル分析 —	王 忠 毅
戦略集合の組の安定性と正当性	大 石 英 貴
米国連邦準備銀行による割引政策と公開市場操作 — アコード以前と以後 —	掛 下 達 郎
情報の非対性の下での金融契約 — ハイ・ロウ・サーチ・アプローチ —	久 保 大 支
ウェイクフィールドの植民の経済学	近 藤 高 弘
最適課税構造と監査戦略	佐 藤 秀 樹
Cost-Padding及び費用節約に関する誘因供与制度の社会厚生分析	周 魯 鐘
オプションの経済的機能についての一考察	詹 錦 宏
所得税制改革とその影響 — 労働供給による分析 —	横 山 佳 充

## 第89号 (1994年7月)

ウェット夫妻における「産業進歩」と労働組合	江里口 拓
経済成長における移行動学と収束に関する実証分析 — 修正されたAugmented Solow Modelによる実証分析 —	片 桐 昭 司
アメリカにおける州間の課税権の競合と調和 — 州個人所得税・小売売上税を対象に —	小 泉 和 重
寡占市場における研究開発に関する分析	周 玉 麟
アジア向け直接投資と貿易決済の変容 — アジアにおける「円の国際化」と決済・金融のアジア化 —	山 本 一 哉

## 第90号 (1994年11月)

費用水増しと規制の厚生分析	周 魯 鐘
動学的二段階研究開発競争	周 玉 麟
ミッテラン政権下の富裕税 — フランス社会の変革と政策の矛盾 —	中 西 一
アジア工業化における国際資金フローの変容 — 政府保証付借款と直接投資を中心に —	平 木 隆 之

## 第91号 (1995年3月)

ウェット夫妻の労働組合論の歴史的背景について	江里口 拓
経済規制の理論と会計規制	大 石 桂 一
経済発展と低開発の罠	片 桐 昭 司

ウェイクフィールドにおける穀物法撤廃と「植民地」	近藤高弘
効率的な賃金差別のもとでの公正性と努力効果	周魯鐘
— 誘因供与制度に基づいて —	
規制下での技術革新	周玉麟
不完全競争下における差別関税政策と一律関税政策	菅田一
— 地域統合にかんする一考察 —	
景気循環における賃金シェアの変動と労使関係	崔東術
遂行理論と社会選択ルールの諸性質	都築治彦

### 第92号 (1995年7月)

ウェップの労働組合運動改革論と社会立法	
— 『産業民主制論』における「合同」から	江里口拓
「連合」への提唱を中心に —	
EC会計制度の調和化の意義	
— ‘TRUE AND FAIR VIEW’概念の意義と役割 —	塩塚武康
独占的競争下における地域集中化の経済厚生効果	菅田一
均衡理論と資本理論 — フィッシャー経済学の原像 —	中路敬
フランス貯蓄税制の展開	
— 三つの財政均衡の観点から —	中西一
アメリカ投資信託と擬制資本の展開	
— 両大戦間期におけるレバレッジの構造 —	三谷進

### 第93号 (1995年11月)

多国籍企業の移転価格戦略 — 法人税率の国際的格差問題 —	王忠毅
米国の会計基準設定団体における投票行動の分析とその意義	大石桂一
労働組合の経済分析	
— 組合と非組合を含むマクロ分析 —	久保和華
金融市場における市場構造、規制、及び経済厚生	久保大支
情報流と都市集積に関する一考察	田中大樹
華僑銀行OCBCグループの企業戦略	
— 所有・経営的側面からの分析 —	中村みゆき

### 第94号 (1996年3月)

カルドアの分配と成長の理論	
— 「前期」モデルの再検討 —	池田毅
中欧工業化史研究の新たな展望	
— 1960年以降の業績を中心に —	碓井仁
インサイダー・株主・主要債権者としてのメインバンク	内田交謹

ウェブの社会改革構想の形成と『ロンドン・プログラム』 — シドニーの都市改革論を手がかりに —	江里口 拓
日本多国籍企業の内部化戦略 — アジアにおける直接投資を中心として —	王 忠 毅
米国貿易収支調整と為替レート管理 — 主流派見解とマッキノン見解の比較考察 —	小笠原 礼 以
需要私的情報がある場合の国際複占競争	岡 島 善 与
アメリカにおける企業ロジスティクス概念の展開 — マーケティングから競争的な企業戦略へ —	姜 昌 賢
1970年代における米国産トウモロコシの輸入価格形成過程	権 藤 幸 憲
日本の「理論会計学」の創設期の学説研究 — 「個別資本循環説」に立つ財産(A) = 資本(K)なる 簿記理論の批判的検討 —	鄭 貞 淑
国際的二重課税論争の発生 — 国際連盟・経済専門家委員会『二重課税に関するレポート [Report on Double Taxation]』（1923年）の検討 —	竹 中 知華子
第2の空間	田 中 大 樹
都市システム研究の分析的枠組みに関する一考察	豆 本 一 茂
フィッシャーにおける貨幣数量説 — 『貨幣の購買力』を中心に —	中 路 敬
中国鉄鋼業の国有企業改革と効率性	中 屋 信 彦
15世紀中葉プロヴァン都市会計簿の分析 — 中世後期フランス都市財政の1例 —	花 田 洋一郎
国土政策の概念とその論理	松 永 裕 己

第95号 (1996年7月)

メインバンクのリスク・シェアリング仮説について — 企業側からの実証分析 —	内 田 交 謹
韓国賃金のマクロ的決定に関する研究	金 哲 熙
会計システムにおける文化的影響と調和についての一考察	塩 塚 武 康
日本における通貨需要関数の安定性 — Co-integrationの関係をを用いて —	瀧 井 貞 行
生産価格と市場価値 — その論理的関係を中心に —	関 野 秀 明
明治九年大蔵省出納条例の構造と機能 — 明治初期における日本の予算制度 —	長 山 貴 之

第96号 (1996年11月)

カルドア 2 部門モデルの検討	池田 毅
発展途上国における金融改革問題 — 金融部門への政府介入と「金融抑圧」—	小笠原 礼以
国際物流システムとNVOCC — 多国籍企業の国際ロジスティクス戦略と関連して—	姜 昌賢
マッキンゼー『予算統制』の形成と意味 — 2つの調整概念—	北村 浩一
労働組合の経済への影響 — 賃金交渉をともなう不均衡マクロ分析—	久保 和華
会計制度の国際的調和についての一考察	塩塚 武康
中国国有企業と日本企業の経営構造比較	邢 穎
馬場理論における「具体化」について	鄭 貞淑
戦略的ネットワークの形成と実効性 — 航空市場における一考察—	仲 徹
松方財政初期における予算の流通と繰越	長山 貴之
A Mutual Approach of the German and Japanese Vocational Training Systems in the Automobile Industry	Markus Tielsch

第97号 (1997年3月)

メインバンク関係と企業の利益平準化政策	内田 交謹
輸出補助金へのロビイング — 私的情報がある場合—	岡島慶知(善与)
萩原鎌太郎における自立的発展の思想 — 田口卯吉の自由貿易思想との対比で—	木嶋 久実
マッキンゼー『予算統制』における調整概念とその意味 — 見積から予算へ—	北村 浩一
保険制度と労働供給の経済分析	久保 和華
国際経営論における競争優位論の系譜と展望	河 知延

第98号 (1997年7月)

公共調達における賄賂阻止メカニズム	池田 康弘
国際補助金ゲームの内生的構造について — タイミングゲームアプローチ—	岡島慶知(善与)
収穫逓増経済における労働調整	岡島慶知(善与)
韓国財閥企業の多角的成長過程と立地展開 — 三星グループを事例として—	金 漢淵
アメリカの穀物輸出と流通構造の再編	権 藤 幸 憲

新規高卒就職者の地域間移動 — 1965年から1994年の変化 —	猿 渡 潔 枝
非定常時系列に関する検定について	瀧 井 貞 行
金融情報システムの最適化	譚 康 融
国有企業の経営危機と「社会主義市場経済体制」	中 屋 信 彦
国土計画の役割について — 「四全総」策定過程の考察 —	松 永 裕 己
日経225種平均株価と指数先物の変動特性と関連性	森 保 洋

### 第99号 (1997年11月)

田口卯吉における自由主義思想の特質とその展開 — 日本的自由主義の形成 —	木 嶋 久 実
アメリカの穀物流通とシカゴ市場	権 藤 幸 憲
利潤極大化, 成長・市場極大化, および生産関係の再生産	関 野 秀 明
パートナーシップ・シンジケートと パーティシペーション・シンジケート — 引受シンジケートの発展過程について(一) —	中 塚 晴 雄
パーティシペーション・シンジケートの形成 — 引受シンジケートの発展過程について(二) —	中 塚 晴 雄
老舗企業とベンチャー企業 — 企業の存続戦略と成長戦略 —	本 谷 る り
個別銘柄間株価の長期的関係について	森 保 洋